

## 第2回 名護市総合交通ターミナル検討部会 議事録

1. 開催日時：令和6年11月12日（火）10：00～11：30
2. 場 所：名護市民会館中ホール及びWeb
3. 出 席 者：

○委 員	
神谷 大介	琉球大学工学部 準教授【部会長】
羽藤 英二	東京大学大学院工学系研究科(工学部)教授 (Web)
前田 裕子	名護市観光協会 理事長
大城 直人	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 専務理事
慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会 専務理事 (Web)
白石 武博	一般社団法人沖縄県レンタカー協会 会長
小川 吾吉	株式会社琉球バス交通 代表取締役
鹿毛 建造	那覇バス株式会社 副社長
新川 幹雄	沖縄バス株式会社 代表取締役 (Web)
比嘉 良尚	東陽バス株式会社 運輸部 部長 (Web)
谷田貝 哲	合同会社やんばる急行バス
宮城 敦	株式会社北部観光バス 常務取締役
北崎祐一	第一マリンサービス株式会社(代理出席)
伊集 守隆	沖縄県警察本部 交通部 交通規制課長
西原 裕也	沖縄県名護警察(代理出席)
亀谷 匠哉	沖縄総合事務局 運輸部 企画室長 (Web)
関 信郎	沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
屋我 直樹	沖縄総合事務局 北部国道事務所長
具志堅 清一	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課長
久場 兼治	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課長
儀間 雅	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課(代理出席) (Web)
當眞 和彦	沖縄県 北部土木事務所 技術総括
佐久本 愉	沖縄県 企画部 交通政策課 公共交通推進室長
兼久 剛一	沖縄県 北部農林水産振興センター 農業水産整備課(代理出席)
岸本 啓史	名護市 建設部長
○事務局	
名護市建設部まちなか再開発・公共交通課	
内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所調査課	
4. 議事要旨：

委 員：名護市中心市街地まちづくり推進協議会や名護市総合交通ターミナル検討部会に参加して感じているのは、交通結節点の規模感や中心市街地とのつながり等、計画の全体像がまだ見えにくいことである。総合交通ターミナルと中心市街地とが有効に連携していくよう、利用者の行動特性等についてもよく考えていく必要がある。また、ハード整備に加え、情報発信等のソフト面も考えていく必要がある。那覇バスターミナルのオーバーは図書館も併設されているにもかかわらず、店舗も変わってしまい少し寂しい感じになっているため、バス利用者だけでなく、地域の方にも楽しんでいただける交通結節点を考える必要がある。

- 事務局：第1回名護市中心市街地まちづくり推進協議会で全体像をイメージできる模型の提案があったが、パースを作成し、第3回のまちづくり推進協議会で示していく予定である。また、今後実施するワークショップにおいても、パースを提示しながら学生等からも意見を聞きたいと考えている。
- 委員：計画を考える際、名護漁港周辺に特化するのではなくもう少しエリアを広げて考えることも有効である。一方で、イメージを伝えるための模型製作は、漁港周辺や総合交通ターミナルのエリアで良いと考える。
- 委員：名護十字路は、琉球バスと沖縄バスの共同運行の路線をはじめ複数のバス路線が運行しているため交通結節点といえる。バス協会長時代に名護十字路周辺にバス停環境改善の要望があったが道路幅員の問題もありできなかった。名護十字路を含めて交通結節点を考えるのであれば、私どもも名護市中心市街地まちづくり協議会に参加したいが可能か。
- 委員：名護市総合交通ターミナル検討部会は交通機能を中心に議論していく場であり、中心市街地のまちづくりに関しては名護市中心市街地まちづくり推進協議会にて議論する。また、バス停の配置計画等については、名護市地域公共交通協議会で議論すべき事案である。この3つの会議体が相互に連携してやっていくことができればよいと考える。
- 委員：那覇方面から北部地域までの大動脈は高速バスで、そこから先の移動はレンタカーという方針で検討しているという認識で良いか。また、道路整備も不可欠だがそのあたりについても確認したい。津波等の災害の視点は重要である。先般の能登の震災では、包括協定を事前に結んでいるものの、情報の一元化に苦労したようである。このような事例も参考に沖縄では安全に過ごせるような計画にしていければよいと考える。
- 事務局：高速バスを基幹交通にして、レンタカー等の二次交通と連携していきたい考えは認識の通り。公共交通利用促進にもつながる道路整備についても引き続き進める。
- 委員：防災については、沖縄県として地域防災計画を定めており、観光客に対しては沖縄県観光危機管理基本計画や実施計画を作り、外国人も含め情報提供や帰宅支援に関する対応を計画している。
- 委員：北部地域には世界遺産があり、更に今後はテーマパークも新たに開業する予定である。各施設への直通バスは利便性が高いことにも留意が必要である。利用実態に応じた運用方法を検討していくべきではないか。
- 事務局：総合交通バスターミナルですべての高速バスから乗り換えてもらうという考えではない。那覇方面から北部までレンタカーで長距離の運転をしたくないという方もいるため、交通手段の選択肢を増やし利用者の利便性を高めていくことが重要と考えている。具体的には今後、詰めていく必要がある。
- 委員：本部港は、那覇港とは別にクルーズ船を誘致したいと考えている。クルーズ船が那覇港に停泊中は、停泊時間の都合がありクルーズ客は北部地域まで来ることができない。現在、本部港はクルーズ船のバース整備が完了したため、今後はターミナルビル建設（民間事業）を推進し、クルーズ客も北部地

域で周遊ができるよう、本協議会で策定を進めている事業計画への反映を進めていければと考えている。

- 委 員：高速船を下船した後の交通手段に悩まれているお客様が多くいるため、名護漁港周辺に総合交通ターミナルが整備されることは大変ありがたい。総合交通ターミナルの利用者は地元や観光客も多く利用が想定されるため、分かりにくい施設にならないようにすべき。高速船内では、総合交通ターミナルの案内をする等、支援していきたい。また、ホームページ等での情報案内も充実できればさらに良い。
- 委 員：北部地域にバスで来訪していただいても、市町村（で運営するバス交通）との連携が取れていないと意味がないため、うまく連携してもらわなければありがたい。
- 委 員：公共交通を柱とした交通体系を整備するきっかけとしてこの総合交通ターミナルを位置づけ推進してほしい。また、定時性確保の問題等は総合交通ターミナルで解決する問題ではないと思うが、公共交通が使われやすい計画にしてほしい。今後の予定で「オープンハウス」とあるが、実施場所は公設市場等の中心市街地でも実施すべきではないか。
- 委 員：道の駅や海の駅等に見られるような、複合的な施設を計画するとよいものができるのではないか。総合交通ターミナルにバスが立ち寄る時間の問題や、起終点にするかといった問題もあるので、このあたりは今後、詰めていく必要はある。
- 委 員：現在の名護バスターミナルがシームレスになっていないと意見があったが、MaaSへの取り組みやOKICA等も導入しているため、なぜシームレスではないのか質問したい。また、高速バス利用者等が目的施設にうまくアクセスできるよう交通事業者として取り組んでいるが、アンケート結果で整備が必要との回答があったものがすぐに総合交通ターミナルの整備につながるのか、お聞きしたい。また、特定車両停留施設には、バス営業所や修理場はできないということだが、起終点には問題があるかもしれない。また、2024年問題の関係で労働時間管理が厳しくなり、守ることができなければ処分を受けるのが実態である。防災に関しては、海拔を調べると名護市役所は1m、北部病院21m、現在の名護バスターミナルは5mとなっているが、名護漁港は海拔0mである。避難施設だけでなく、高潮が来ないよう防波堤なども必要になってくるのではないか。
- 委 員：利用者の利便性に留意しながら産・官・学、全方位から検討の具体化をお願いしたい。
- 委 員：胡屋地区については用地など課題が多いと聞いている。名護市総合交通ターミナルは非常に楽しみにしている。先ほど説明のあったパース等ができ、計画が見えてきたらタクシーの観点から意見を申し上げたい。
- 委 員：高速船との接続強化や、北部圏域内の市町村との連携等、オープンハウス等、ご意見いただいた点を含め検討していきたい。また、沖縄市の胡屋地区についても引き続き検討を進めていきたいと考えている。
- 委 員：施設配置の資料（P37、38）が特に分かりやすい。名護市の経済活動を活性化させるためには市街地側に交流機能を持たせるというのは理解できる。その際、ホテルや中心市街地を起点とする回遊に基づいた空間設計やデザイン

のスタディが重要になる。「やんばるの玄関口」を考えれば、ある程度の敷地確保ができるよう海側も使うということも考えられる。また、海側に交通機能を集約という考え方もあるが、国道58号の動線複雑化にもつながるため、公共交通の運用にも配慮し上下線に交通機能を割り付ける。また、国道上空を活用し、海と街をシームレスにつなぎ、防災機能も担保するデッキを整備する沖縄方式のバスタを目指すのが良いのではないか。併せて、地元からも意見を十分に聞き、配置を決定していくことも重要である。先日、震災のボランティアで能登に行つたが、「のと里山空港」でボランティアの受け入れを実施していた。これは（被災地内での）渋滞を起こさせないということだと思うが、レンタカーからバスに乗り換えて移動したのが印象的だった。先日の沖縄での豪雨経験も踏まえつつ、海側には比較的土地があるので、北部地域の防災拠点として名護バスタを明確に位置づけ、各市町村と連携しながら防災機能の充実もお願いしたい。

委 員：「漁港」という特徴もあるため、このキーワードもどこかに入れておいた方が良いかもしれない。総合交通ターミナル検討部会で実施すべきか確認は必要だが、観光客が本島内をどう動いているか、名護市内をどう動いているか等、人の動き踏まえたうえで計画していくべきである。例えば、観光客が美ら海水族館に行く場合、沖縄に来た当日に行くか、2、3日目にいくのか等、行動パターンを踏まえ議論を深めていくことが必要と考える

以 上